印度の詩人

国枝史郎

青空文庫

印度（インド）独立運動が活潑になりガンジーの名が国際舞台へ大きくうつしだされてきた。

ガンジーにつれて思い出されるのは同国の詩人タゴールのことである。

タゴールがノーベル賞金を受けて世界的有名になった頃、日本観光に来た。それを招待してタゴールを日本中へ紹介したのは大阪朝日新聞社で、天王寺の公会堂で、タゴールの初御目見得と第一声とを発表した。その時わたしは同社の若い記者として、時の社会部長の長谷川如是閑（にょぜかん）先生の下に、叱られ叱られ働いていたその時にも、会場の光景を書くべく、会場に出張し、鉛筆を嘗（な）めていた。会場は文字通り立錐の余地のないほどの盛況であった。

タゴールは、白色の長い印度服を着白のターバンを捲き、悠然と壇上に立った。磨いた銅のような美しい艶のある顔色肩にまで降りかかっている長髪、鳳眼隆鼻、まことに神々しいほどの端麗さを備えた容貌がわたしたちの眼をみはらせた。彼は手に持っていた原稿を読んだ。その声？　それは、故人となられたが当時の主筆兼編集局長であった鳥居素川先生が「あの声を聞いただけでも若い婦人などは泣くね」と評されたほど感銘の深い、銀鈴を振るような声であった。

通訳に立ったのは、西蔵（チベット）探険で有名な河口慧海師で、師は、枯木のような体に墨染の法衣をまとい、タゴール翁と並んで壇上に立った。この二人の対照はまったく素晴らしい「オリエンタルカラー」の生きたサンプルであり、洋風の会堂が不似合いにさえ感ぜられた。

× × ×

私はタゴールの詩は「新月」ほか数種読んでいるし、戯曲も「郵便局」その他幾篇か読んでいる。正直のところ、その詩は、具体性が無いという点で、私にはあまり好ましくなかった。私にはシェレーの「雲雀（ひばり）の歌」やヴェルレーヌの「廃園」のような、空に喘ぎ昇る雲雀の姿が見えて来るような詩でないことには、又衰え咲いている草花の間に欠けた塑像が立っている、そこに寂しく、噴水が、忘れられた昔の歌をうたっている――そういう光景の見えて来るような詩でないことには、受入れることが出来ない。

タゴールの詩にはそういう、具体性がなかった。

彼の戯曲も、その素朴の構成などは、アイルランド劇に似通うものがあって好感は持てたがあまりに迫力に乏しく、とらえどころのないという点で嬉しくなかった。

タゴールがノーベル賞金を得たのは、その彼の芸術のためではなく、英国政府が、印度民衆をサービスするために、多分に政治的意味を罩（こ）めて策動したからであるなどと、その当時喧伝されたことがあったが、まさかと思う。しかし英国の性格からすれば有りそうなことである。

わたしにとってはタゴールはその風采容貌と声とが何より詩であり美であった。

その彼の祖国印度もどうやら長年の英国の鉄鎖から解放されそうである。

解放された印度からどんな詩人が産れることか。

青空文庫情報

底本：「国枝史郎歴史小説傑作選」作品社
2006（平成18）年3月30日第1刷発行
底本の親本：「外交」
1940（昭和15）年9月16日
初出：「外交」
1940（昭和15）年9月16日
入力：門田裕志
校正：阿和泉拓
2010年11月15日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

印度の詩人

国枝史郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/